

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902546		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム春光		
所在地	北海道旭川市春光5条6丁目5-20		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172902546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172902546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅街の一角にあり、幼稚園、小学校も近いため地域の方々と外でお会いする機会に恵まれた環境。</li> <li>・近くには大きな公園(春光園)があり、散歩や涼みに活用しています。</li> <li>・母体が医療法人のため、医療との連携がとれています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人が母体である複合施設、春光介護支援館の1階に位置するグループホームで、2階はサービス付き高齢者向け住宅となっている。バス停から徒歩1分と交通の便が良く、近隣には、地域の避難場所にも指定されている緑豊かな公園の春光公園があり、公園前には国の重要文化財である旭川彫刻美術館や井上靖記念館があるなど散歩に適した恵まれた環境である。そこでは、毎年恒例の夏祭り・グリーンコンサートも開催され、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。建物は周囲の環境に配慮した上品な建物で、使いやすいトイレや洗面所、床暖房の入った浴室など設備が整っている。家族が頻りに訪問してくれるのでその都度リーダーが管理者が対応して意見を聞き、可能な限り要望に応じている。職員も管理者を信頼して利用者の事や運営面などを気軽に相談できる雰囲気なので、利用者もゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、来訪者を歓迎しており、居室でお茶やお菓子を一緒に食べて楽しく話をしてもらっている。利用者に頼まれて、職員が指定の店で趣味の品や材料を買ってくるなどの場面もある。母体が医療法人なので、毎朝、医師が事業所を訪問するなど医療面での利用者・家族の安心感は強い。医療情報や重度化した場合の対応指針や書類も整備されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、引継ぎの際に復唱し、実践を心掛けている。	法人の運営理念とケア理念に加えて、毎年、事業所独自の目標を全職員で話し合って作成し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板を入居者と共に隣家へ届けたり、地域の行事に参加するなど交流の機会を支援している。	近くの公園で、毎年恒例の春光夏祭り・グリーンコンサートが開催されるので、利用者と職員と一緒に楽しく参加している。その他にも盆踊りやジンギスカン鍋などの行事にも誘われるなど地域との交流が深まっている。近くの幼稚園児との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、お伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の活動状況などを報告したり、自営消防訓練と合わせて行なうなどし、その際の助言をサービスに繋がられるよう努めている。	運営推会議は、2か月に1度行われ、町内会役員や地域包括支援センター職員に参加してもらっているが、民生委員や家族の参加は得られていない。議事録は全家族に送っている。会議の年間テーマ設定は現在は特に行っていない。	今後は、民生委員への参加を呼びかけ、家族にも会議の案内を送付することを期待したい。また、年間の会議の開催予定表を作成し、年間テーマを設定するなど会議に興味をもってもらえるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回包括職員に参加頂き情報交換をしている。また、市主催の研修会に参加し運営やサービスに繋がっている。	運営推進会議の議事録を、市の担当者に直接届けている。また、1～2年に1回、市が主催する介護に関する「集団指導」があり、管理者が参加して市の担当者と意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はないが、必要時にはご家族に説明し同意を書面にて頂き行なっている。また、研修を通じて身体拘束に対する理解を深め拘束のないケアの実践に努めている。	法人で、身体拘束についての委員会があり、マニュアルを整備している。「身体拘束をしないケア」についての研修は特に行われていないが、今年度は「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」について勉強会を行う予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い防止に努めている。入浴時や更衣時には、全身観察を行い異常などがいないか確認をしている。		

グループホーム 春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる方はいないが、研修会に参加し、必要時に支援ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご本人、ご家族の意向を確認しながら契約の説明をし同意を得ている。その後心配や不明な事があればいつでも聞いていただけるよう支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に要望や意見を伝えて頂けるように、来訪時やお電話などでも声掛けをしている。契約書にもその旨を記載している。	家族の訪問が多く、訪問の都度リーダーや管理者が対応し意見を聞いている。美容室に行くことができない利用者の髪の手入れをしたり、利用者に指定された店で趣味の品を買ってくるなど家族や利用者の要望には可能な限り対応している。年1回の食事アンケートも行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定例会議やミーティングで話し合い、運営などに反映できるよう努めている。	毎月のミーティングで、職員は活発に意見交換し、人員の配置などでも職員の意見を取り入れているケースが多い。日常でも管理者が職員の意見をよく聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、毎月職員の就業に関する事を代表者に報告している。人事考課を取り入れており、向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、各自が責任を持って積極的に受講できるよう、提示している。また、力量に応じて必要な研修が受けられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部、外部研修を通じて、同業者との交流を図れるよう努めている。他事業所と意見交換することで、個人の意識の変化やケアの向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、可能であれば見学して頂き、ご本人の要望などを伺っている。入居に至るまでには不安や心配なことが少しでも取り除けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様に、入居に関する要望、不安、心配、疑問などには何度でも説明をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と要望などの確認の中で、グループホーム入居以外の方法があれば、必要なサービスについてご説明するなどの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生き立ちや職歴、得意なことや好きなことなどを把握して、日々の生活の中で役割のようなものができるところで生き活きと生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されても、ご家族の存在はご本人にとって励みや頼りとなっているため、情報を共有しながら、ご家族には、様々な場面でご協力いただいている。月に一度はお便りでホームでの様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、ご家族に協力頂きながら、馴染みの関係が継続できるよう支援している。(美容室、お墓、親族や友人関係 など)	利用者の元近所に住んでいた方が年に数回訪問してくれる利用者があり、居室でお茶やお菓子を一緒に食べて楽しく話をしている。職員は、利用者に頼まれて趣味の品や材料を買ってくるなど、馴染みの人や趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や共有スペースのソファやイスの配置に考慮し、時には1人でのんびりと、または入居者同士や職員などと、人間関係が円滑のように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、不明なことや相談などを気軽にさせていただけるようお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の意向を確認したりくみとり、職員間で共有し生活に活かせるように支援している。ご家族とも相談させていただいている。	思いや意向を言葉で表出できない利用者には、表情やしぐさを見ながら他の職員と相談し対応している。アセスメントシートは、センター方式を基本に毎年更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、ご本人、ご家族より聞き取りし入居後の生活に活かせるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人記録にご本人の状況、ケア内容等を記録している。現状の把握だけでなく、その後のケアに活かせるよう記録に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意向、主治医の見解、ホームでのご本人の生活状況を更に職員間で総合、検討し、介護計画書の作成をしている。	介護計画は、毎月モニタリングし、4か月を基本に見直している。介護計画は内容を要約説明した文章を添えて利用者・家族に示し署名捺印を得ている。日々の記録も介護計画を意識して記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、1日2回の職員間の引継ぎを行い職員間で情報の共有に努めている。また入居者の変化についてその都度対応方法などを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室がある場合には、ショートステイに活用している。入居に不安がある場合にはショートで試していただくことが可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの近隣にある、コンビニ、公園、訪問理美容を活用している。夏季は運動のため散歩などの希望に添えるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医の意向を確認している。ご家族に協力をいただき必要な医療が受けられるよう支援している。	母体である医療法人の医師が毎日訪問しているので、体調が悪いときはいつでも診察が可能であるが、かかりつけ医の選択は自由である。基本的に協力医以外の受診は家族対応だが、都合の悪いときは職員が対応している。医療情報は経過記録・日報に記載し全職員で共有している。	

グループホーム 春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度協力医療機関より看護師が来訪し、入居者の状態を確認したり、体調などについて相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体が医療機関であり、かかりつけ医となっているため、医師、看護師と連携がとれている。入院した場合は、早期に退院できるよう支援している。又、在宅医療も可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看とりまでの支援があることと、ご本人ご家族の看とりについての意向確認書を記入頂いている(意向の変更にはいつでも対応)。	利用開始時に利用者・家族に対し「重度化した場合における対応に係る指針」を説明して同意書に署名・捺印を得ている他、毎年「日常の健康管理・緊急時の対応・終末期の対応意向確認書」で意向を確認している。重度化した段階では医師が立会って「看取りに関する指針」をもとに今後の対応を話し合い、同意書に署名・捺印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、内部研修などで、職員が緊急時に対応できるよう努めている。母体が医療法人のため相談がしやすく、職員は落ち着いて対応ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議時に行うなどし、地域の方にも見学していただいている。	年2回、設備会社主催の避難訓練が昼間対応で行われている。今年度中に消防署立ち合いの夜間対応の訓練を行い、町内会役員にも立会ってもらう予定である。災害時の備蓄品は用意されている。職員の救急救命訓練は、まだ定期的に行われていない。	今年度中に消防署立ち合いの夜間対応の訓練が行われ、地域の協力が得られるとのことなので期待したい。また、定期的な救急救命講習の実施も期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な状況に応じて、言葉かけや対応に配慮している。	利用者への呼びかけは、名字か名前に「さん」付けとし、利用者の人格を尊重し、発言を否定しないように指導している。個人情報ファイルは安全な場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと対話する時間をなるべく設けて、思いや希望が表現できるように配慮している。その意向に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、各自のペースを大切に心地よく生活できるよう努めている。また、ご家族にも協力いただいている(特に外出)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の理美容の対応や好きな服装で過ごして頂いている。ご自分で着衣の調整ができない方には気温などに考慮しながら着脱を支援。		

グループホーム 春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作成、食後の食器拭きや片付けは積極的にお手伝いしていただいている。入居者同士がお互いをいたわり合いながら行われている。	法人の栄養士が2週間毎のメニュー作成している。現状では人員の関係から調理は委託業者が行っているが、誕生日には利用者の好みのメニューを提供している。外出レクでは利用者の希望に応じてミスタードーナツを食べに行くなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な水分や栄養が摂れるよう、個人の状況に応じて食事形態を変えるなどし支援。また個人の生活リズムに合わせて摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内が清潔に保てるよう個人の状況に合わせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるよう、介助を行っている。尿意や便意がなくても出来る限りトイレにて排泄できるよう排泄リズムの把握やトイレ誘導に努めている。	誘導が必要な利用者が5名いるので、排泄パターンを把握して声かけし、トイレ誘導している。声かけのときには利用者の耳の聞こえが悪くなっていることもあり、大きな声で声かけしてしまうこともある。	利用者の自尊心に配慮し、周囲に気づかれないように小さな声で呼びかけ、「トイレ」などの直接的な言葉を使わないよう工夫することを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状況に合わせて、運動や飲食、服薬などで対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は入浴日を決めている。入浴時間は出来る限り個人の状況に合わせて、希望に沿えるよう配慮している。希望があれば2名一緒に入れる浴槽の大きさがある。	週2回を基本として入浴支援を行っている。浴室は床暖房になっており、冬でも暖かく入浴できる。また、入浴剤を入れるなど利用者が楽しく入浴できるように工夫している。利用者の希望に応じて同性介助や身体状況により2人介助の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に合わせて、昼夜問わず自室や共有スペースで休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録にお薬内容の用紙を保管し常に確認が出来るようになっている。必要時は服薬による様子観察の記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なこと好きな事などを把握することで、グループホームの生活でも引き続き楽しめるよう努めている。		

グループホーム 春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時期には近隣を散歩したり歩いておやつを買物などに出かけている。外出行事で車輻で普段は行けないところで飲食したり見学できるよう支援している。またご家族との外出を楽しんでいる方もいる。	目の前に春光公園があり、散歩コースにも小さな公園がある恵まれた環境にある。夏場は散歩や近くのコンビニエンスに買い物に出かけている。園児の通園路にあたるので、玄関に出て園児に声かけするのも楽しみのひとつとなっている。ドライブや外食支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持についてはご本人の状態に合わせて自己責任にてご家族にお任せしている。ホームでお預かりしているお金については、ご本人の趣向品や消耗品など希望に応じて使用できるよう支援し、毎月出納をご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の状況に応じて、電話などで親族や友人などと交流できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの整理整頓や清掃を心がけ、入居者がそれぞれ心地よく過ごせるような家具の配置や植物を含めた季節感のある装飾を行っている。台所が中心にあり調理のにおいや音を感じられる構造。	食堂兼居間にはテーブルと椅子、ソファが置かれ、台所から全体が見渡せる造りとなっている。壁には利用者と職員と一緒に作った飾り物がたくさん飾られ、リビングの中央には季節の飾り物が配置されている。また、利用者全員の集合写真が開設当時から8年間分飾られており、利用者の歴史を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の入居者同士の相性などを常に観察し、共用スペースの家具の配置に配慮している。入居者の状況に応じて変化させている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、ご本人の使い慣れたものを持参頂くようお願いしている。また心身の状況に応じて必要な物品などを揃えたり、又は引き取ってもらうなどしている。	各居室には利用者の写真が表札代わりに掲げられ、認知度が落ちて部屋を間違わない工夫がなされている。電動ベッドと寝具、カーテンは備えつけられているがそのほかの家具はそれぞれ馴染みの物をもちこみ、居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、オール電化。トイレや自室などは明記したり目印をつけている。個人の力量でできることが継続できるようその都度支援している。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム 春光

作成日：平成 27年 3月 11日

市町村受理日：平成 27年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の日程をご家族様へお知らせしていない。	ご家族様への会議の案内。	運営推進会議への出席のお願いと、年間予定表を作成しお渡しする。	1年間
2	35	救命救急講習を受けていない職員がいる。	定期的な救命救急講習への参加。	母体の医療法人での定期的な救命救急講習への参加。	毎年
3	43	排泄誘導の際の声かけ時「トイレへ行きましょう」と誘っている。	羞恥心に配慮した声かけ、誘導の実施。	毎月の定例ミーティングにて接遇研修の実施。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。